

## 休耕田で太陽光発電！？

### 谷津田プレーランドプロジェクト(YPP) 高山 邦明

東日本大震災による原発事故をきっかけに再生可能な自然エネルギーへの関心が高まっています。昨年、ソフトバンクの孫正義社長が国会の委員会で休耕田などに太陽光発電装置を設置して発電する「電田（でんでん）プロジェクト」を推進すべきだと提案して、注目を浴びました。全国にある休耕田や耕作放棄地などを「電気の田んぼ」と見立て、その2割に太陽光発電装置を設置すれば、「原発50基分の発電ができる」ということです。さらに今年に入って、農林水産省は耕作放棄地に太陽光や風力などの発電施設をつくりやすく



田んぼに隣接するセイタカアワダチソウに覆われた放棄田

くするように農地法などの規制を緩和し、再生可能エネルギー発電を促進するとともに、その利益を農村振興につなげ、全国でおよそ40万ヘクタールに及び耕作放棄地の活用に取り出すことを宣言しました。全国の耕作放棄地のうち、長期にわたって耕作されていない17万ヘクタールで発電事業を行えば、国内の電力供給の20%程度まで賄えると試算しています。

田んぼは米づくりを止めるとアシやガマ、さらにはヤナギやセイタカアワダチソウなどが入り込んで一面を覆い尽くし、環境が大きく変わってしまいます。ここではメダカやドジョウ、アカガエルなどのオタマジャクシが姿を見ることはできません。赤とんぼが産卵できるような水面もありません。田んぼでは米づくりによって環境が適度に乱されることによって生物多様性がとても高くなっています。春の田起こし、水張り、初夏の田植え、夏の草取り、秋の稲刈りと米づくりの作業を行うたびに田んぼの環境はめまぐるしく変わり、谷津田で暮らす生きものたちはその変化にうまく成育のサイクルを合わせています。アシなど背の高い草に日差しがさえぎられ、水面に日差しが届かないので、プランクトンの繁殖が抑えられて、プランクトンを餌にしてきたメダカなどは暮らせなくなってしまいます。冬場、谷津田に隣り合わせた休耕田に水たまりがあってもニホンアカガエルが産卵することが少ないのは、そこが暮らしにくいことを知っているようです。

谷津田と比べるとはるかに生物多様性が低い休耕田ですが、そこにも生きものたちの暮らしがあります。初夏、ぐんぐん背を伸ばすアシにスゲドクガというガの幼虫が止まっているのをよく見かけます。アシの初々しい緑の中に毛虫の鮮やかな黄色が目立ちます。ドクガという名前が付いていますが毒はありません。アシ原ではタケカレハという大きな毛虫も時に目にしますが、これはちょっと触ったら大変な毒を持っているので要注意です。アシ原で一番にぎやかなのは南国からはるばる渡ってくるオオヨシキリの鳴き声。ギョギョシ、ギョギョシ、ケケシというとてもにぎやかな声で一生涯懸命なわびり宣言をしている光景は初夏のアシ原の風物詩です。谷津田に隣接したアシ原はニホンアカガエルの親たちの生活場所にもなっているようです。また、小さなカヤネズミがアシの葉を編んだ丸い巣を作って静かに子育てをするのも休耕田の中です。アシが茶色く枯れてしまう冬が実はアシ原が一番にぎわう季節。たくさんの野鳥たちがやって来ます。シジュウカラやエナガは群れで訪れて、アシの



アシの葉を食べるスゲドクガの幼虫。毒はない



アシの葉を編んで作られたカヤネズミの巣（撮影：網代春男）

耕作放棄地の有効活用」と言いますが、すでに生きものたちがありのままの休耕田の自然を有効活用しているのです。休耕田は緑に覆われていることにより、周囲の気候を穏やかにしてくれるという機能も備えています。

太陽光発電が注目されていますが、そもそも太陽光はエネルギー密度が低いので太陽光を活用するためには広い面積が必要になります。そこで増えつつある耕作放棄地が注目されたのですが、広大な休耕田を太陽光発電所に変えることは大規模な自然破壊であることをよく考える必要があります。太陽光パネルに覆われた谷津の風景を想像してみるとゾッとしてしまうのは私だけではないと思います。

YPPの活動を進める私たちとしては、やはり、休耕田を増やさないと考えています。しかし、谷津田を田んぼとして維持することは容易ではなく、たくさんの人が必要で、急速に増える休耕田を私たちがすべて引き受けていくのには限界があります。休耕田になるのは困りますが、それでも自然という意味では田んぼが他の目的で使われるよりはるかに良い状態です。休耕田についても自然観察をして、生態系の様子を記録していくことで、休耕田＝不毛の地という誤解を招かないようにすることも必要でしょう。

これからもみなさんのご理解とご協力をぜひよろしくお願い致します。

茎の中にいる虫をくちばしでつついて食べているようです。ほかにもアオジ、カシラダカ、アカハラ、シロハラ、ベニマシコ、ヒヨドリなど様々な野鳥が餌を探している様子を見ることができます。そして、モズやオオタカ、ノスリなどの猛禽がそんな鳥たちを狙いにやってきます。

このように耕作放棄地は決して不毛な土地ではなく、たくさんの命を支えています。休耕田に一面、太陽光パネルが敷かれてしまったらこうした生きものたちの暮らしは奪われてしまいます。太陽エネルギーが利用できるようになることは人間にとって大きなメリットですが、一方で休耕田の自然を破壊してしまうのです。「耕作



アシの茎の皮をはがして餌を探すシジュウカラ

## 谷津田いきもの図鑑 No. 54

### ニホンカナヘビ

田んぼに遊びに来る子どもたちにトカゲは人気の生きものです。谷津ではニホントカゲとニホンカナヘビの2種類が見られますが、カナヘビの方が警戒心が弱くて捕まえやすいようです。スリムな体は全体に地味な茶色ですが、目の下から脇腹にかけて続く白い線がよく目立ちます。お腹は黄色味がかった白色をしています。よく見ると体にウロコがあるのに気づいていましたか？全長は16～27センチですが、そのうち10センチ以上を長い尻尾が占めています。トカゲの特徴で、尻尾をつかんで捕まえようとするすると自分で尻尾を切って逃げちゃうので要注意。必ず体を押さえるようにしましょう。餌にしているのは小さな昆虫やクモ、ワラジムシなどの生きものです。夏には数個の卵を産みます。畦に生えている草の根元などでまれに見つかることがありますので、見つけてみてください。ニホンカナヘビは日本の固有種で北海道から九州、さらに種子島など周囲の島まで広く分布しています。（高山邦明）



葉っぱの上で長いしっぽを見せる（撮影：網代春男）



# 里山たんけんレポート

## 第146回 下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い

2012年3月4日(日) くもり

どんよりと曇った寒い観察会になりました。スタートの森の中では冬眠中のウラギンシジミがキツタの葉裏にじっととまっていた。木の名札裏ではキハダカニグモも冬眠していました。春の兆しを探しながら谷津を一巡しましたが早春の花も日差しがなく蕾状態のままです。セイヨウタンポポ、オオイヌノフグリ、ヒメオドリコソウ、タネツケバナ、オランダミミナグサ、コハコベ、ノミノフスマなどが花をつけているようでした。ヤナギの花芽のふくらみが目立つようになってきました。

ニホンアカガエルの産卵はほぼ終わったようで2月26日のカウント以降いくらかも増えていませんでした。昨年の半数以下の産卵数でした。メスの数だけ卵塊はあるはずですから確実にメスの生息数が減っていることになり気がかりな結果です。湧水のある田んぼではオタマジャクシが大きくなって広がって泳いでいました。

ウグイス、ホオジロ、シジュウカラなどの囀りを期待しましたが、囀ってはくれませんでした。鳥は相変わらず少なく、13種出現しましたが声もまばらにしか聞こえてきません。ツグミの仲間が1羽声を上げて飛びましたが種は判りませんでした。今年はまだはっきりツグミの姿を見ていません。カワセミ、ヒヨドリ、モズ、エナガ、シジュウカラ、メジロ、カシラダカ、アオジ、ハシブトガラスなどは出てくれました。寒くて震え上がった観察会でした。

(参加者 大人3名； 報告：網代春男)

## 第131回 下大和田 YPP「野草を食べる会」

2012年3月20日(火・祝) 晴れ

開催予定の3月17日があいにくの雨だったため、20日に順延となりました。急な変更でしたが、大勢の方が集まり、最初にみんなで谷津を散策しながら野草を摘みました。今年は寒さが厳しかったせいで、野草の芽生えが遅れていて、ミツバはちょうど出始めたところですし、ニフトコはまだ芽吹いていない枝があるほどでした。それでもノビル、ヨモギ、ハルジオンなどひと通りの野草を摘むことができました。夢中になって摘んでいるとすぐ近くの藪から「ホ～ホケキョ！」と、ウグイスの大きな声に驚かされました。

イベント広場に戻ってめいめい集めた野草を種類ごとに仕分けをし、天ぷらやサラダ、汁物、おひたしなどにいただきました。ほんのり苦みのある味わいを楽しまない春が来た気分になりませんね。子どもたちも喜んでほおばっていました。そう、デザートのコモギだんごも人気でしたね。

(参加者：大人18名、高校生5名、小学生3名、幼児4名；報告：高山邦明)



草の根を切って畦を壊す作業中(撮影：高山邦明)

## 第76回 小山町 YPP「田んぼの手入れ」

2012年3月25日(日) 晴れ

米づくりのはじまりに備えて、田んぼの整備をしました。まずは小学校田んぼの畦に空いた穴の補修とはひこり始めた“つる草”取り。穴はモグラの仕業で、複雑に入り組んで伸びていました。モグラが元気ということはミミズなど餌の生きものがたくさん暮らす肥えた土だということですが・・・冷たい水が好きなたつる草は田んぼの水の取り入れ口に密生していました。まだ根が張っていないこの時期に取らないと後が大変なのです。次は YPP 田んぼ。小区画に分かれています、その分ける畦が冬の間崩れていました。どうするか思案の末、畦を取り払い、全体を一枚の田んぼにすることにしました。崩れているとはいえ、草の根がしっかりと張っているので、それを切って開墾しなければいけない大変な作業でした。1枚の田んぼになるととても広く感じられます。さて、今年も米づくりをがんばるぞ！とみんなで気合いをいれました。

(参加者：大人8名、小学生1名；報告：高山邦明)



草の根を切って畦を壊す作業中(撮影：高山邦明)

## <谷津田・季節のたより>

### 小山町

- 3月 3日 アカガエルの卵塊が増えているが、例年よりは少な目（高山）。  
3月 11日 オオイヌノフグリが咲き誇っている。アカガエルの卵塊は1週間前よりも大幅に増加（高山）。  
3月 25日 アカガエルの産卵はほぼ終わって、オタマジャクシが元気に泳ぎ回っているが、少数ながら新しい卵塊（前の晩くらいに産卵されたもの）がある。シュレーゲルアオガエルが弱々しく鳴く（高山）。

### 下大和田

- 3月 28日 ハシボソガラスが田んぼで採餌していた。ハシボソガラスはここではたまに来てくれる鳥（網代）。  
3月 29日 シュレーゲルアオガエルが鳴き始めたが、まだ合唱とまではなっていない。アズマヒキガエルの卵塊があった（網代）。

## イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ？ と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、YPPのイベントには大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうして、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先（いずれも）：ちば環境情報センター（TEL&FAX：043-223-7807 E-mail：hello@ceic.info/）

ご注意：・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないください。

- ・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。
- ・小学生以下のおさんは保護者同伴で参加ください。
- ・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任でお願いします。

## ▼第132～134回 下大和田 YPP「苗代づくり」・「田起こし」・「田植え」

いよいよ今年の米づくりがはじまります。田んぼでの苗代づくりから田起こし、田植えまで作業が続きます。春から初夏へ生きものたちも息吹がいっぱいの谷津で気持ちの良い汗を流しましょう。

小さなお子さんでも参加できますので、みなさんでいらして下さい。

日 時： 苗代づくり 2012年4月 7日（土）

田起こし 2012年5月 5日（土）

田植え 2012年5月 19日（土）：予備日 20日（日） いずれも 10:00～14:00 小雨決行

場 所： 千葉市緑区下大和田谷津田（ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。また、ご連絡いただければ地図をお送りします。）

集 合： 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に 10:00（JR 千葉駅 10 番成東あるいは中野操車場行きのちばフラワーバスで 45 分<千葉駅発 8:53、9:08、9:23 など> 料金は 520 円）

持ち物： 弁当、飲み物、長靴（長め、できればホームセンターで販売している田植え用長靴）、軍手、敷物など。

参加費（資料代等）： ちば環境情報センター会員および家族 100 円、一般 300 円、小学生未満無料

主 催： ちば環境情報センター 共 催： ちば・谷津田フォーラム

## ▼第148回 下大和田 5月の谷津田観察会とごみ拾い

シオヤトンボ、カワトンボ、ヤマサナエが出現する季節を迎えました。生きものや花々との出会いを楽しみましょう。

日 時： 2012年5月6日（日）観察 10～12 時 午後は田んぼの作業など自由活動 \*小雨決行

場 所： 千葉市緑区下大和田谷津田（下大和田 YPP に同じ）

集 合： 下大和田 YPP に同じ

持ち物： 筆記用具、飲み物、長靴、帽子、敷物、ゴミ袋、午後まで活動する方は弁当など

参加費： 100 円（小学生以上、資料代など）

主 催： ちば・谷津田フォーラム 共 催： ちば環境情報センター

## ▼第77・78回 小山町 YPP「田んぼの手入れ・苗代づくり」

3月に続いて4月に田んぼの畦の補修をし、ゴールデンウィークに田んぼの一角に苗代づくりをします。6月始めの田植えに向けて準備をしましょう。

日 時： 田んぼの手入れ 2012年4月14日（土）10:00～12:30

苗代づくり 2012年5月6日（日）10:00～12:30 \*小雨決行

場 所： 千葉市緑区小山町 リンドウ広場（ご連絡いただければ地図をお送りします）

持ち物： 飲み物、長靴、帽子、軍手、敷物、

参加費： 100 円（小学生以上、資料代など）

主 催： ちば環境情報センター

編集後記 ゆっくり、ゆっくりやってきた春がようやく本番を迎えようとしています。谷津田では暖かな日差しを浴びながらニホンホソアカガエルのオタマジャクシが元氣よく泳ぎ、ウグイスのさえずりが響き渡っています。林では木々の芽吹きが始まりました。そして、いよいよ今年の米づくりがはじまります。さわやかな季節を楽しみながらの作業を楽しみましょう。では、田んぼで会いましょう！

（高山 邦明）

